

作成日	2019 年 6月26日
学科・専攻名	生活造形学専攻

## 教育課程・学習成果

### 1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

#### 【現状説明】

生活造形学専攻では教育課程編成・実施の方針に基づき、学士課程での学修を基礎として、科学的に造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学を理解する方法や、左記分野についての高度な専門性を身につけることができるよう、各科目の関係・順次性を明示した体系的な教育課程を編成し実施している。1年次には造形意匠学特論 I, II, III, IV、アパレル造形学特論 I, II, III, IV、空間造形学特論 I, II, III, IV を配置し、学生の研究遂行に必要な、科学的に生活造形学分野を研究するための基礎的能力を涵養する科目が配置されている。2年次にはそれぞれの領域の発展として特別演習、特別研究等の相互に関連する授業科目が配置されている。また、科目選択の柔軟性を確保するために、外部より著名な教員又は実務家を招聘するオムニバス形式の生活造形学特別講義を開講しており、コースワークだけでなく、演習や実験、修士・博士論文の指導を通したりサーチワークにより、高度な知識と研究手法を体得しうる教育課程を体系的に編成している。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

外部より著名な教員又は実務家を招聘する生活造形学特別講義を 2015 年度から開設し、既に 3 カ年経過している。

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

### 2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

#### 【現状説明】

各授業は少人数科目であり、修了までの継続的なゼミ指導により、情報収集力、収集した情報を分析し考察する力等のアカデミック・スキル養成に注力している。また、生活造形学特別講義では造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の各領域について、外部より著名な教員又は実務家を招聘するオムニバス形式で実施し、総合的な教育の充実を図っている。

シラバスには、授業の到達目標、授業の概要、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、学生へのメッセージ、教科書・参考書の明示、京女 AL 区分などを明記し、学生が主体的に学習するように設定している。またコースワークとして、講義科目、演習科目、実験科目を設置しており、大学院生はこれらの履修を通じて、修了に必要な単位を修得している。また、論文作成にあたっては個別指導を行い、修士論文中間報告会や学会・研究会での発表を通して、サーチワークによる指導を行っている。なお、大学院生はティーチングアシスタント（TA）として、授業の準備や後輩の指導補助を行うことで自らの学修到達度の確認と指導スキルの向上を図る制度があり、効果を上げているところである。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の各分野の教員が参加し、修士論文の内容を評価する機会（中間発表会、事前発表会、最終発表会）を設けており、学生は多方面の専門家からフィードバックを得ることができる。

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

### 3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

#### 【現状説明】

授業とは別に専攻の構成員が全員出席する、修士論文の内容を評価する機会（中間発表会、事前発表会、最終発表会）を設けて学修成果を確認し、それらを通して教育課程及びその内容、方法の適切性を専攻で検証している。

以下の大学院アンケートの結果は、平成 30 年度の家政学研究科博士前期課程と博士後期課程の学生を対象とした評価で、生活造形学専攻のみの評価とはいえないが、点検結果として報告する。対象者は 30 名で、18 名（60.0%）から回答が得られた。授業内容の適切さについて、期待していた通りとの回答の割合が減少した。カリキュラムの大幅な変更はないので、授業内容が大きく変わったとは考えられず理由は不明である。ただし、履修指導の適切さに対する評価は 70.6% と非常に高く、さらに、教員の研究指導については、88.9%が適切であると高く評価された。また、TA の経験についても、経験が学生の役に立ったと理解されている事が把握できた。

その他の改善に結びつける取り組みとしては、全学の FD 講演会、修論の中間発表会、事前発表会、最終発表会、公開授業への参加、学外の FD 関連研修・講演会への個別参加等を通して行っている。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

各分野の構成員が全員出席する、修論の中間発表会、事前発表会、最終発表会を持続する。

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

## 教員・教員組織、FD

### 1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

#### 【現状説明】

教員組織の編成は、学部所属も前提に募集しているが、授業や研究指導の経験を踏まえて大学院での授業担当者・指導教員としての審査も行うことで、カリキュラムに則した、よりふさわしい専門家としての教員組織を編成している。また、2018 年度には准教授も大学院指導教員とする人事の総合的な見直しを行い、年齢構成の幅を拡げた。なお、カリキュラムとの関連については、造形意匠領域、アパレル造形領域、空間造形領域で構成されるカリキュラムに対し、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学を研究分野とする教員を配置しており、カリキュラムと各研究分野が整合している。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

2018 年度には准教授も含めた大学院指導教員の担当科目の総合的な見直しを行い、専門教育の領域が広がった。

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

### 2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

#### 【現状説明】

各専攻の構成員が全員出席する、修士論文の中間発表会、事前発表会、最終発表会が独自の FD としても機能している。2018 年の教員の参加状況は 14 人中 14 人（教員中 100%）であった。教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度については、「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、学科会議で検証している。

**【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

各専攻の構成員が全員出席する、修論の中間発表会、事前発表会、最終発表会自体が FD 活動となっている。

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）**

<b>一般的なコメント（総評）</b>
適切な点検評価が行われています。認証評価の指摘事項に関連して、2019 年度から全研究科に共通する基本的な指導計画が大学院生に明示されていますので、今後記入してください。
<b>改善勧告コメント（具体的な改善の指示）</b>
学位ごと（家政学と学術）の学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が設定されていないため、今後対応することが求められます。

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<b>意見</b>
・学位ごと（家政学と学術）の学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については、研究科として検討の上、対応することとする。